

# 令和7年（2025年）の十和田の火山活動

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

2023年以降、<sup>なかのうみ</sup>中湖付近の深さ5km前後が震源と推定される火山性地震の発生頻度がやや高い状態であり、GNSS連続観測では、2023年前半から主に十和田湖を挟む東西の基線でわずかな変化が認められています。火山活動は深部にやや変化が認められるものの、概ね静穏に経過しています。

## ○ 噴火警報・予報の状況、2025年の発表履歴

2025年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

## ○ 2025年の活動概況

### ・噴気などの表面現象の状況（図1～3）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

10月9日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、中湖付近に噴気や湖面の異常は認められませんでした。

### ・地震や微動の発生状況（図4、図5）

3月30日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は18回となりました。震源は中湖付近の深さ約6km付近と推定されます。最大の地震のマグニチュード※は2.7でした。

9月28日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は25回となりました。震源は中湖付近の深さ約7km付近と推定されます。

深さ5km前後より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

火山性微動及び低周波地震も観測されませんでした。

なお、2023年以降、中湖付近の深さ5km前後が震源と推定される火山性地震の発生頻度がやや高い状態にあります。

※ マグニチュードは地震の規模を示します。

### ・地殻変動の状況（図6、図8）

GNSS連続観測では、2023年前半から十和田湖を挟む東西の基線において、わずかな伸びの変化が認められています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 十和田 中湖周辺の状況（12月10日）

・銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

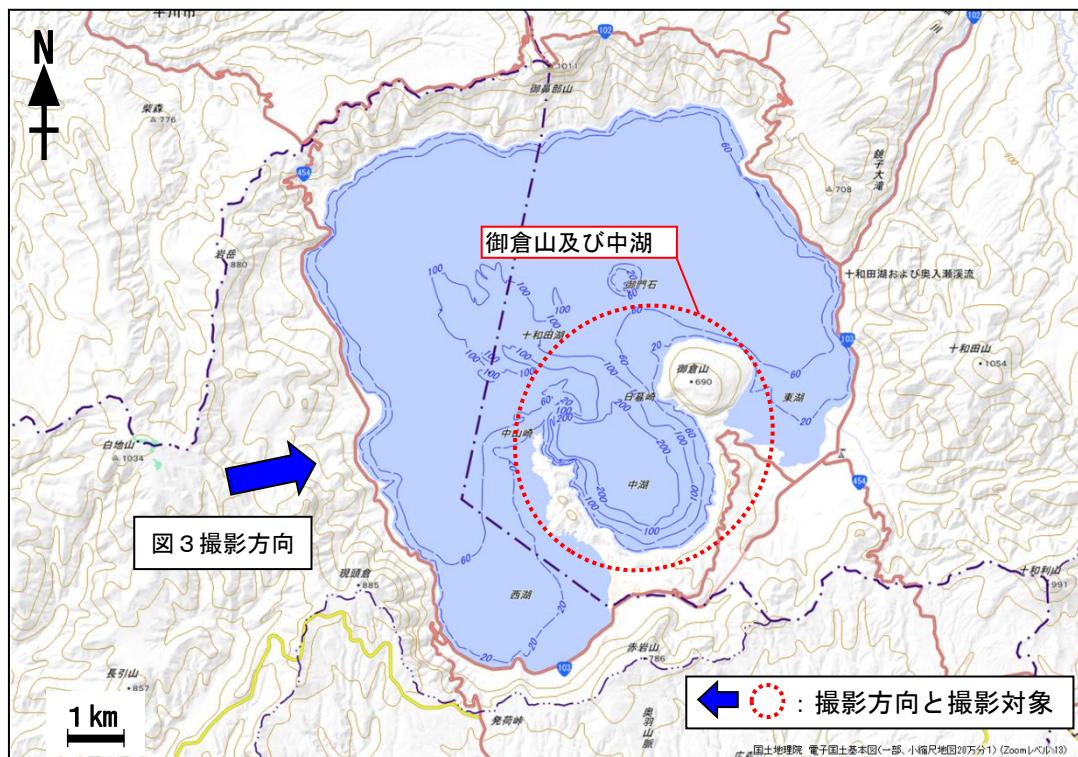


図2 十和田 写真及び地表面温度分布の撮影方向及び撮影対象

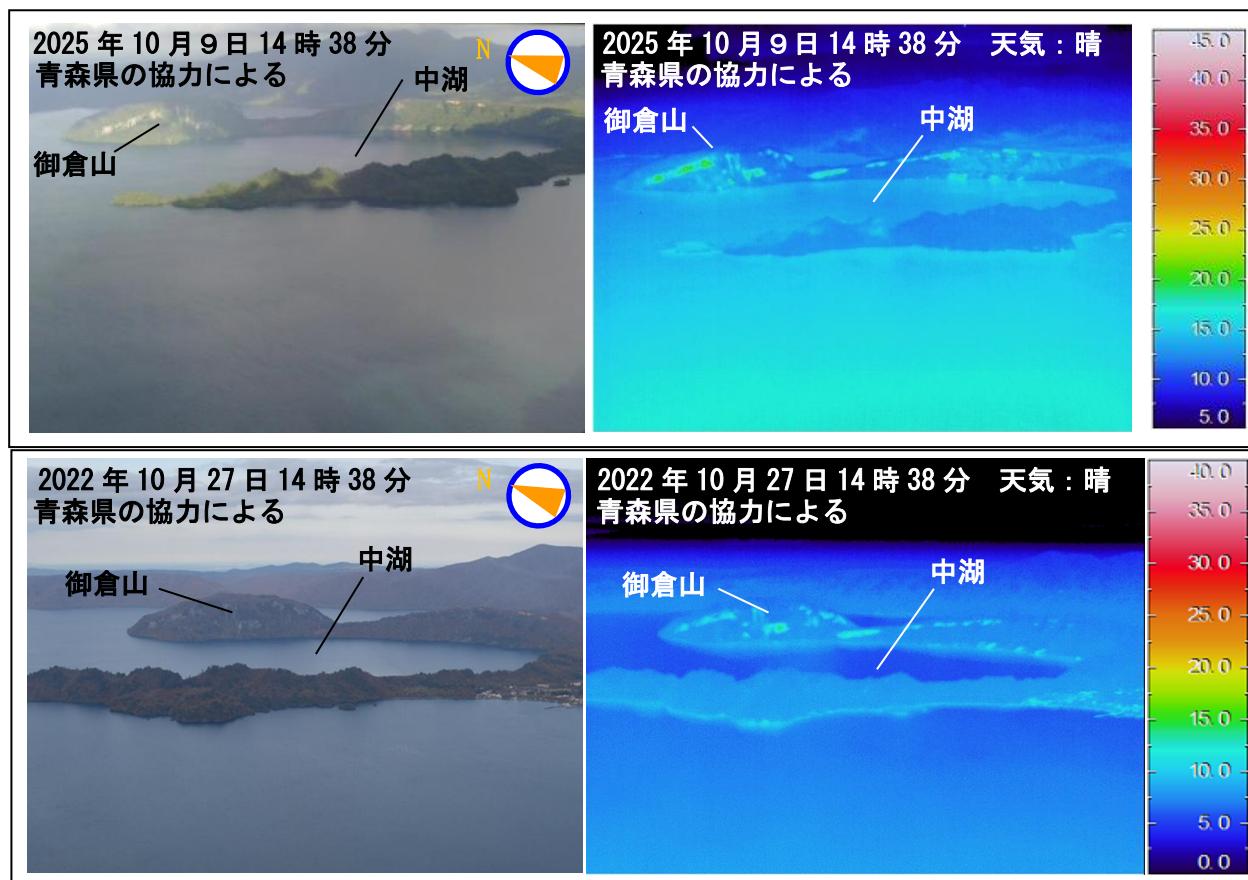


図3 十和田 上空から撮影した御倉山及び中湖の状況と地表面温度分布

・日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

前回（2022年10月27日）と同様、噴気及び地熱域は認められませんでした。

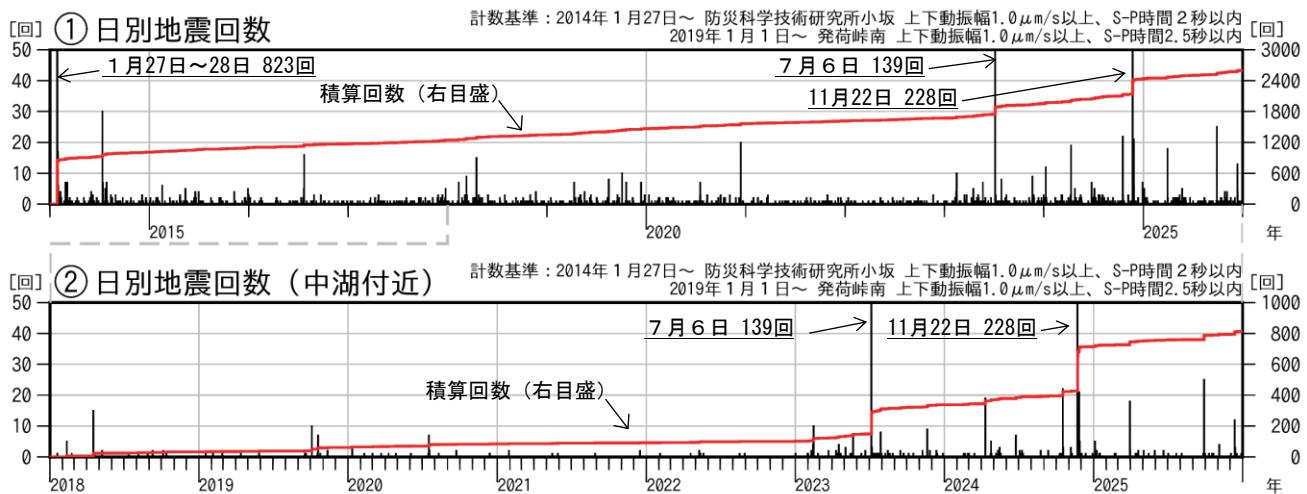


図4 十和田 活動経過図（2014年1月～2025年12月）

3月30日及び9月28日に火山性地震が一時的に増加し、日回数はそれぞれ18回、25回となりました。

2023年以降、中湖付近が震源と推定される火山性地震の発生頻度がやや高い状態にあります（図5）。

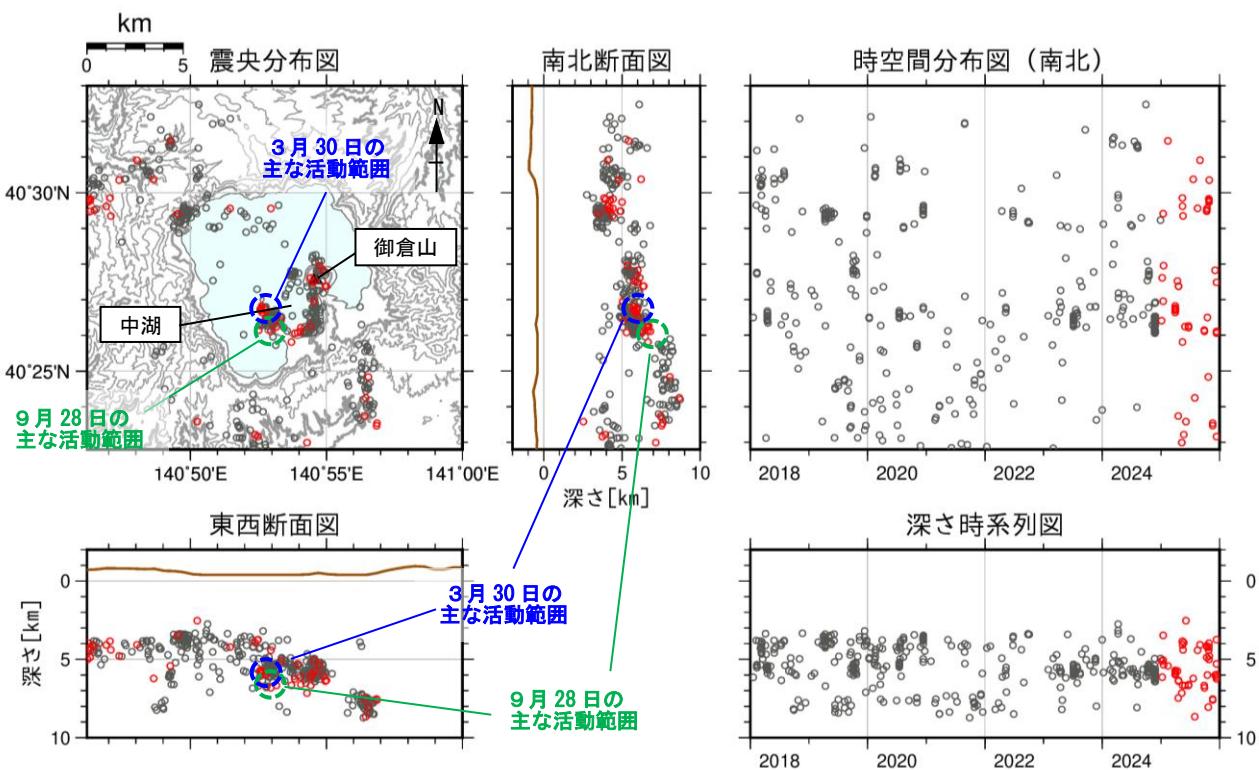


図5 十和田 地震活動図（2018年1月～2025年12月）

3月30日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は18回となりました。震源は中湖付近の深さ約6km付近と推定されます。最大の地震のマグニチュードは2.7でした。

9月28日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は25回となりました。震源は中湖付近の深さ約7km付近と推定されます。

十和田では、これまで深さ約5km前後での地震が発生しています。より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

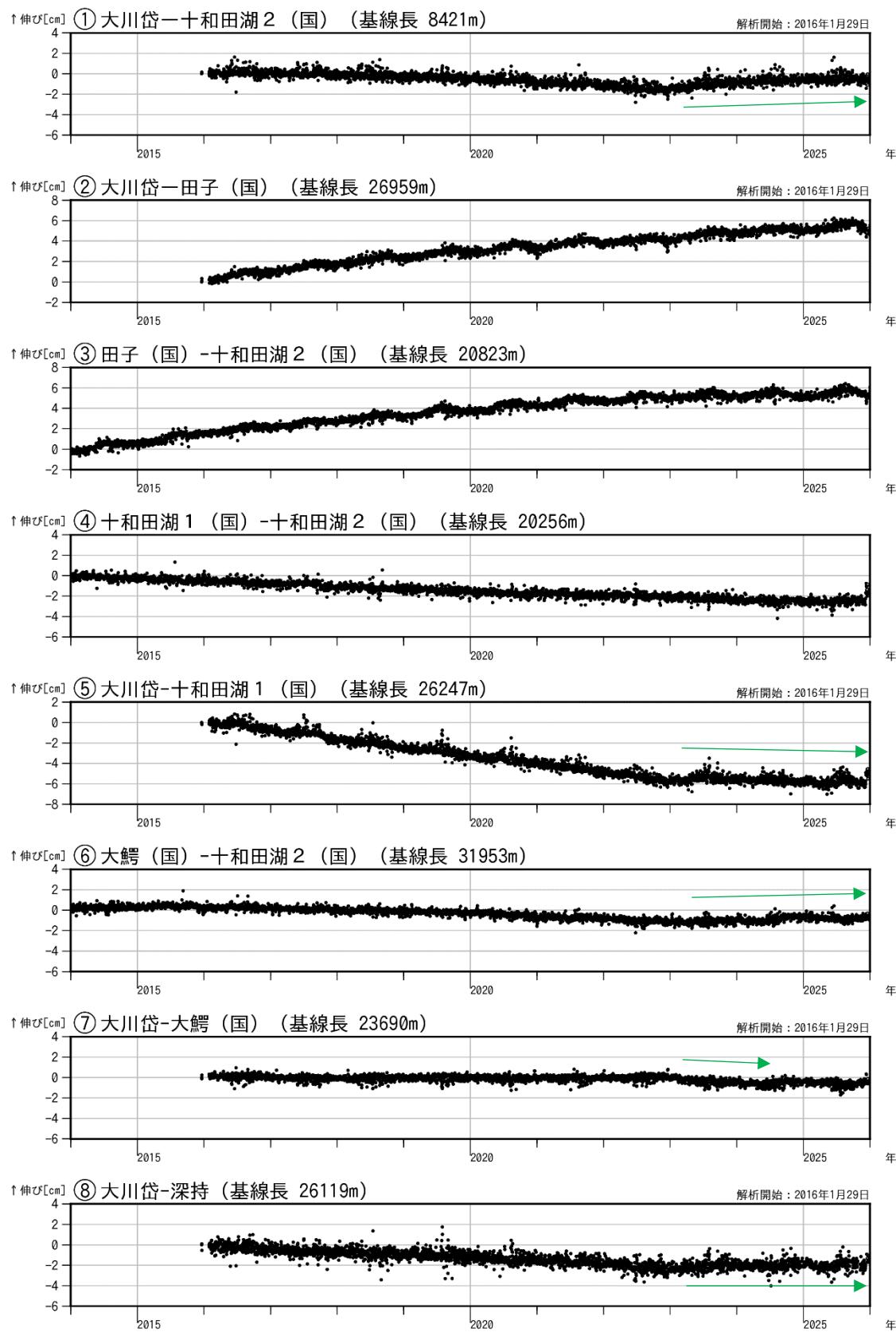


図6 十和田 GNSS 基線長変化図 (2014年1月~2025年12月)

- ①~⑧は図8のGNSS基線①~⑧に対応しています。
- （国）は国土地理院の観測点を示します。
- 2025年12月8日の青森県東方沖の地震に伴うステップ状の変化が一部基線で認められます。
- 空白部分は欠測を示します。

2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位と十和田湖2（国）観測点の東方向への変位によるとみられるわずかな変化が認められています（緑矢印）。

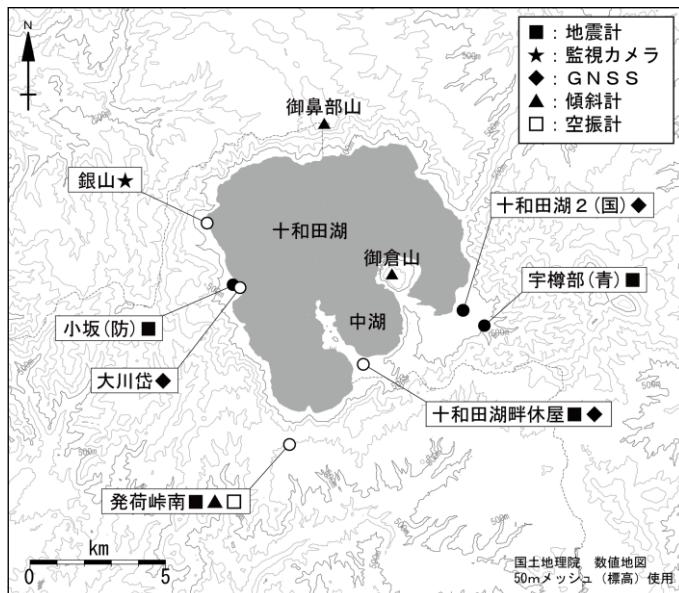


図7 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

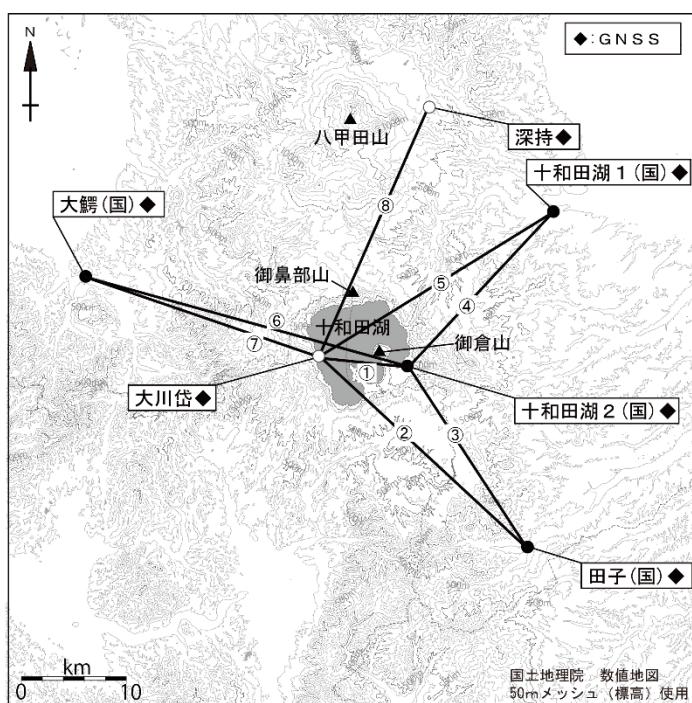


図8 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

表1 十和田 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	発荷岭南	40° 24.14'	140° 51.87'	599	-83	2016.12.01	
	十和田湖畔休屋	40° 25.76'	140° 53.84'	409	-3	2016.12.01	広帯域地震計
空振計	発荷岭南	40° 24.14'	140° 51.87'	599	5	2016.12.01	
傾斜計	発荷岭南	40° 24.14'	140° 51.87'	599	-83	2016.12.01	
GNSS	大川岱	40° 27.32'	140° 50.56'	407	4	2016.12.01	
	十和田湖畔休屋	40° 25.76'	140° 53.84'	409	4	2024.12.11	臨時観測点
監視カメラ	銀山	40° 28.63'	140° 49.69'	405	4	2016.12.01	